

全体目標：

外科診療の基本を身につけ、主な心臓血管外科疾患について検査・手術を含めて幅広く学び、心臓血管外科領域の基本的な診療技能を習得する。医療人にふさわしい礼節と社会性を身につける。

個別目標：

- 以下の検査・処置等に関し、適応の判断、手技の実施および結果の解釈ができる。
①血液・尿・細菌検査、②静脈確保、③動脈ラインの留置および動脈血液ガス分析、④気道確保および人工呼吸、⑤補助呼吸、⑥創処置、⑦胸腔穿刺、⑧中心静脈ラインの留置、⑨Swan-Ganz カテーテルの留置、⑩循環作動薬の使用、⑪IABP、⑫血液透析、⑬腹膜透析、⑭ペースメーカーの使用
- 胸部・腹部 X 線の系統的な読影ができ、異常所見を指摘し、解釈を述べることができる。
- 頭頸部・胸部・腹部 CT/MRI の系統的な読影ができ、所見を指摘し、解釈を述べることができる。
- 血管造影・冠動脈造影の系統的な読影ができ、所見を指摘し、解釈を述べることができる。
- 心臓カテーテル検査の適応、方法および合併症を理解し、所見を指摘し、解釈を述べることができる。
- 心臓超音波検査の適応を理解し、所見を指摘し、解釈を述べることができる。
- 各種心臓血管疾患に関し、ガイドラインに沿った診断、手術適応の判断および手術方法の立案ができる。
- 心不全およびショックの病態を理解し、診断および治療方法の立案ができる。
- 各種心臓血管疾患における手術手技について理解し、手順を述べ、基本操作を実施できる。
- カテコラミン、血管拡張薬、抗不整脈薬および抗菌薬の効果や副作用を理解し、使用できる。
- 指導医の監督のもと、基本的なインフォームドコンセントの取得ができる。
- 患者の尊厳に配慮し、常に最善の医療を提供するための心がけができる。
- ブリーフィング、プレゼンテーションの修練を積んだ上で、学会発表や症例報告の作成ができる。
- よく挨拶ができ、他人を敬い、医療人・社会人としての品格ある言行ができる。

方略：

病棟において 5-10 名程度の患者を受持ち、指導医のもとで受持ち医として主体的に診療に取り組む。

- ・受持ち患者の術前・術後管理に主体的に関わり、目的意識を持って手術に参加し介助する。
- ・指導医のもとで、下肢静脈瘤手術、ペースメーカー植込み術などの基本的な手術操作を行う。
- ・教授回診（毎週月曜）・准教授回診（毎週金曜）；受持ち患者の詳細なプレゼンテーションを行う。
- ・ブリーフィング；毎朝のミーティングで術後患者、重症患者の経過を簡潔に説明する。
- ・術前カンファレンス（毎週水・金曜）；科内での症例検討に参加し、プレゼンテーションを行う。
- ・循環器内科との合同カンファレンス（毎週水曜）；内科から提示される症例について手術適応を議論する。
- ・小児科との合同カンファレンス（毎週木曜）；小児科から提示される症例について手術適応を議論する。
- ・抄読会（不定期）；トップレベルの英文論文に触れ、読解能力を養いながら最新の外科理論を身につける。
- ・各種研究会および地方会に積極的に参加し、症例報告を行う。

評価：

- ・EPOC II による評価を行う。
- ・修了時に評価票（初期研修医の経験内容等に関する自己評価および指導体制等に関する評価を記載したもの）を提出する。評価票は全スタッフが共有する。
- ・研修中に養成コース長による面接評価を行う（適宜）。